

## 8-2 ダイオキシン類追跡調査結果

### (1) 神崎川水域における汚染範囲特定等調査結果

常時監視地点である神崎川「新三国橋」においては、平成12年度以降、水質の環境基準値を上回っている。本水域においては平成13年度から原因究明のための追跡調査を実施してきたところ、神崎川水域・番田水路上流の三箇牧水路に高濃度の底質が存在することが判明し、これが三箇牧水路の水質濃度が高くなっている原因であるとともに、番田水路の水質にも影響していることが考えられた。

そこで、高濃度に汚染された底質の汚染状況を詳細に調査するため三箇牧水路において底質中のダイオキシン類の測定を行い、汚染範囲の把握を行ったところ、表1のとおりであり、地点3からその下流の13箇所で環境基準値を超過した。(平成18年9月20日公表済)

表1 三箇牧水路底質ダイオキシン類測定結果(平成18年6月29日)

(単位: pg-TEQ/g)

地点	左岸(L)	流心(M)	右岸(R)
1	68	53	—
2	—	100	—
3	—	460	400
4	—	20,000	22,000
5	—	44,000	11,000
6	—	15,000	5,000
7	9,600	11,000	—
8	—	19,000	—
9	—	4,800	—
10	—	1,800	—

大阪府は、この調査結果を踏まえ、図1に示す鳥飼北部排水機場より上流の高濃度区間について、平成18年度中に底質除去工事を実施した。

今後は、対策効果の確認のため水質および底質のモニタリングを行うとともに、汚染の再発防止のため引き続き周辺事業所の監視指導を実施する。また、鳥飼北部排水機場より下流区間についても汚染範囲の把握調査を行う。

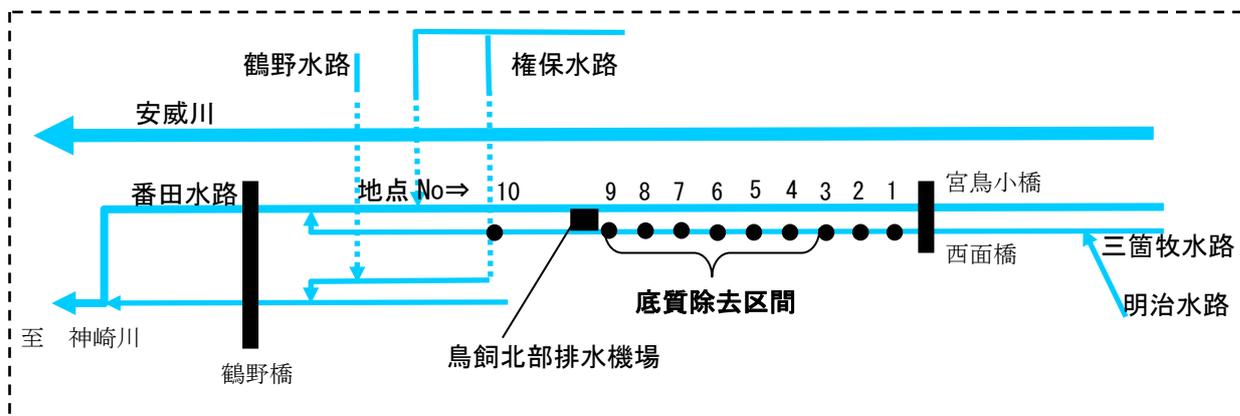


図1 三箇牧水路底質除去区間

## (2) 常時監視地点の濃度変動調査結果（季節変動調査）

平成 17 年度追跡調査（汚染範囲特定等調査：恩智川、玉串川、天野川）において、調査の発端となった常時監視地点及び過去に環境基準値を超過しその後改善が見られなかった常時監視地点について、平成 18 年度は、年間 2 回の常時監視調査に加え春季および冬季に調査を行い、季節変動調査等を行った。

調査地点及び季節変動調査結果は表 2 のとおりであった。

表 2 季節変動調査結果

河川名	調査地点	ダイオキシン類水質濃度 (pg-TEQ/L)					備考
		春	夏	秋	冬	平均	
天野川	淀川合流直前	0.64	0.99	0.25	0.35	0.56	
神崎川	新三国橋	2.0	4.5	1.9	3.4	3.0	
安威川	新京阪橋	1.1	1.6	0.96	1.3	1.2	
寝屋川	住道大橋	0.87	1.7	0.55	0.52	0.91	
恩智川	福栄橋下流 100m	—	1.7	1.5	0.28	1.2	春季:工事中
恩智川	住道新橋	3.0	1.2	0.48	1.2	1.5	
玉串川	JA グリーン大阪前	1.8	1.7	0.84	0.63	1.2	
津田川	昭代橋	1.4	0.90	1.4	0.35	1.0	
樫井川	樫井川橋	1.2	0.30	0.89	0.56	0.74	

「恩智川 住道新橋」においては、各季節の測定値の変動が比較的大きく、春季に 3.0pg-TEQ/L という値を示した。また上流での工事の影響も否定できないことから、今後も引き続き年 4 回の季節変動調査を継続する。

その他の調査地点においては、常時監視調査（夏秋の平均）での結果と今回行った季節変動調査結果（春夏秋冬の平均）には大きな違いがなく、環境基準の達成状況の把握において常時監視調査（年間 2 回）での調査で特に問題ないことがわかった。今後は年間 2 回の常時監視調査を継続し水質濃度を把握するものとする。